

	<p><b>主な研究分野</b> <b>森林生態学に関連した内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自然林における森林群集の更新動態に関する研究。屋久島やマレーシアなどで自然林の群集動態とそれに関わる要因、例えばシカの影響などを解析。最近尾瀬や屋久島の森林の数百年～千年スケールでの実際の過去の更新履歴を明らかにするために、生木や枯死木の年輪解析を開始した。</li><li>・樹木の豊凶や植物季節に関する研究。多くの樹木で知られている結実の豊凶は、繁殖戦略にかかわる生態学的に重要なテーマであるが、そのメカニズムや進化的要因に関して未解明な点が多い。福島県内とマレーシアの森林において、継続的な植物季節のモニタリングを続けている。</li></ul>
<p><b>木村 勝彦</b> Kimura Katsuhiko 修士(理学) 大阪市立大学</p> <p>1991年 科学技術特別研究員 (国立環境研究所) 1996年 国際協力事業団長期派遣専門家 (マレーシア 国復層林施行現地実証 調査プロジェクト) 1997年 福島大学助教授</p>	 <p><b>年輪年代学に関連した内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・埋没林の年輪解析による過去の森林の生態復元。通常の化石記録では過去に何がどの程度存在したか、しかわからない。埋没林を使うことで現在と異なる環境下で植物種が「どのように」生育していたかを明らかにすることを旨とする。温暖化が進むことで森林に何が起こるかを予測する鍵にもなる。</li><li>・出土木材の年輪解析による遺跡の編年。遺跡発掘で検出される建物群の年代には従来極めて粗い推定値しか与えられなかったため、集落の規模や人口、変遷に関して多くの議論があった。新潟県青田遺跡出土の柱材の年輪解析では縄文時代の遺跡としては国内で初めて建物群の年代関係を明らかにした。</li><li>・埋没材などの木材を使った火山噴火等の高精度年代決定。放射性炭素(14C)年代、火山などの専門家と共同で年輪年代学と14C年代法を併用した高精度年代決定を進めている。中国・北朝鮮国境の白頭山では、噴火によって枯死した炭化木材試料を採取し、1年輪毎に試料を切り出して14C年代を測定して過去の14C変動曲線とマッチングさせることにより、10年以下の精度での年代決定を目指している。</li></ul>
<p><b>学会活動</b> 日本生態学会 日本植生史学会</p>	
<p><b>社会活動</b> 東北地方ダム管理フォローアップ委員会摺上川ダムモニタリング委員会特別委員 和台遺跡調査指導委員会委員</p>	
<p><b>主な担当科目</b> 生態学概論 森林生態学 ほか</p>	<p><b>相談に応じられる分野・テーマ</b> ・遺跡出土材などの古い木材の年代推定</p>
	<p><b>キーワード</b> 森林, 年輪</p>
	<p><b>代表的な業績</b> 木村勝彦・櫻村利道 (2004) 年輪解析による尾瀬沼周辺および、尾瀬ヶ原における樹木への人為影響の推定. 尾瀬の保護と復元 26, 45-52. 福島県. 木村勝彦・齋藤智治・中村俊夫 (2004) 青田遺跡における柱根の年輪年代学的解析による建物群の年代関係の検討. 青田遺跡. 新潟県埋蔵文化財調査事業団, 印刷中.</p>